

■ お金を貯金できるように、愛も貯愛できる

修正： 2022.05.01

投稿： 2022.05.01



● お金を貯金できるように、愛も貯愛できる①

本棚にクモの巣があったので掃除していたら、

5cm ほどの細くて大きなクモが、
上から降りてきました。…。(°Д°)

//-----

「**信頼残高**」という考え方があります。

愛を貯金(貯愛)するという発想です。

お金を貯金すれば、貯金残高は増えます。逆に、
引き出せば、それだけ残高も減ることになります。
マイナスになれば借金状態です。
これと同じことが愛にも起こっています。

相手に対して与えることができれば、
相手に対して愛が貯愛されることになります。
※愛と表現しておりますが、信頼や友情などを指します。

しかし、相手から何かを奪おうとすれば、
相手から愛を引き出すことになります。
もしマイナスになれば敵対関係です。

ただし、本当に与えたことになるかどうかは、
受け取った側が評価します。与えた側が 100 与えたつもりでも、
受け取った側が 25 と感じれば、25 の預け入れにしかありません。

「**100 与えたのに 25 の感謝しかないなんて恩知らずだ!**」

と言われる筋合いはありません。その人の善意が
ありがたいかどうかは、受け取った側が評価することだからです。
(「見たいように見る」の原則)

そして、本当に預け入れになっていれば、
相手は心から感謝し、恩返ししたいと思うことでしょう。
(「内から外へ」の原則)

この「与えて与えられる」の好循環によって、
お互いの心に愛が預け入れられ続けられれば、

愛の残高はどこまでも増えていくことになります。

(そのうちインフレはしますが)

これこそ理想的な人間関係と言えるでしょう。さて、
親子関係、上司部下関係、お客様関係、師弟関係などなど、

あなたはきちんと**預け入れ**をしていますでしょうか？

(続)

//=====//

●お金を貯金できるように、愛も貯愛できる②

愛もお金と同じように、預け入れや引き出しができます。

「**信頼残高**」と言う考え方です。言わば愛の**数値化**です。

※愛と表現しておりますが、信頼や友情などを指します。

相手がしてほしいことで、積極的に与えれば、

相手に対する預け入れとなります。しかし、

相手がしてほしいことをしてしまえば、

逆に相手から引き出すことになります。

与えたつもりになって、実は与えられていなかった、

ということはよくある話です。例えば、日本では、

災害や戦争の被災者に対して「**千羽鶴**」を送ることがありますが、

被災者からすれば、ただの「**ありがた迷惑**」とされています。

(箱を開けたら千羽鶴だけが大量に入っていて絶望した…と)

ネットでは、

「**貰っても役に立たないし、捨てづらい。**

自己満足でしかない、善意の押し付けはやめろ！

と言うか、そんなもの送るくらいなら募金しろ！」

という辛辣な意見も飛び交っておりました。

そもそも、ボランティアにしろ、ビジネスにしろ、何にしろ、

相手が望むものが最適解、という縛りがあります。

相手が求めてもないものを相手に与えても、

相手からすれば、大して与えられたことにはならないのです。

支援が的外れだからです。

本当に相手のためを思うのであれば、

相手がしてほしいと“言った”ことをやればいいのです。

「言われたことをやる」が、一番、相手は喜んでくれます。

「言われたことをやる」というのでは、

大して自己満足は得られないかもしれませんが、

そうした地味な支援こそが、相手が本当に必要としている、

相手に最も預け入れできる方法なのです。

(続)

//=====//

●お金を貯金できるように、愛も貯愛できる③

別にしてほしくもないことで、**勝手に貢献**されても、

それは単なる**「ありがた迷惑」**でしかありません。

そうして**「恩を仇で返される」**ことを繰り返すことで、

ようやく、**「自分の支援の仕方は間違っていた」**

ということに気づき始めます。

これは私の持論ですが、

「褒められたいだけの人の善意はうんこのように汚い」

です。世の中には「**教え魔**」と呼ばれる人種の人があります。

頼んでもいないのに勝手にコーチングを始める人たちです。それは、

詳しく知りもしないくせに知ったかぶる教師であったり、

偉そうな態度が鼻につく上司であったり、

時代遅れなアドバイスを繰り返す親であったり、

様々です。そうした求めてもないことで、一方的に

アドバイスをされても、「**何この人？**」と思うだけですし、

「いや、結構です！」とでも言えば、

「はあ〜、あなたのために思って言ってあげてるのよ！」

という態度ですから、腹立たしさしかありません。

そうして触れ合えば触れ合うほど、

信頼残高は減っていくわけですから、

やがて信頼残高が底を突き借金状態となれば、

相手にどんなにアドバイスを試みても、

防衛的な態度を取られ、聞き入れてもらえなくなります。逆に、

信頼残高が高ければ高いほど、自分の意見は聞き入れられます。

自分の意見を聞いてほしいなら、まずは、

相手に対して**預け入れ**をしなければなりません。

人にアドバイスをするにあたって、

最も必要なのは、相手との**信頼関係**です。

(続)

//=====//

●お金を貯金できるように、愛も貯愛できる④

愛は貯愛できるということで、

「信頼残高」という考え方を取り上げました。この概念、愛に対してのみならず、「罪」に対しても成り立ちます。

とは言っても、至って簡単なことで、

残高がマイナスになっていれば「罪」となります。

借金すれば、それだけ返さなければなりません。

罪も同様で、罪を犯せば償わなければなりません。

普段、私たちは、誰がどれだけ借金しているかは、分かりません。しかし、強制的な手段で調査すれば、一人一人の状況を把握することができます。同様に、

普段、私たちは、誰がどれだけの罪を犯しているかは、分かりません。ですが、もし一人一人の罪を調査できるようになれば、人の繋がりを金で分析できるように、罪の観点からも人の繋がりを分析できるようになります。

そして罪とは、信頼残高がマイナスの状態ですから、

信頼回復のためには、それだけ相手に

預け入れをしなければなりません。もちろん、

100万円を借りたときですら利子がつくのですから、100万円を盗んで100万円を返すのでは話になりません。加えて、与えることはそもそも難しいことですから、罪を償うことがどれだけ難しいかは、容易に理解できます。

実は、罪とは、償いたくても償えるものではないのです。なら最初から犯さない、相手から奪わないことが一番です。

このように、愛も罪も、数値化すれば、

お金のようにして扱うことができます。以上、
「信頼残高」と呼ばれる考え方についてでした。

(完)

//=====//

Web サイト :

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者 :

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)